

受入れ国政府要人からの声



Hareini Amarasinghe

スリランカ首相 ハリニ・アマラスーリヤ

JICA海外協力隊が、これまでスリランカの開発に継続して貢献してこられたことに感謝申し上げます。1981年以来、JICA海外協力隊員は日本とスリランカをつなぐ架け橋として活躍してきました。教育、保健、農村開発、青少年育成といった分野での活動は、スリランカ地域社会の発展を支え、二国間協力の強化にも寄与してきました。スリランカ政府および国民を代表し、この長年にわたるパートナーシップとJICAを通じて日本から寄せられた継続的な支援に対して感謝の意を表します。今後も、相互の成長と持続可能な開発を促進するさらなる協力に期待しております。

ベリーズ首相 ジョン・アントニオ・ブリセーニョ

JICA海外協力隊発足60周年に際して、世界各国の皆様と共に祝いできることを、大変光栄に思います。世界で最も歴史あるボランティア組織の一つであるJICA海外協力隊は、これまでベリーズを含む多くの国々で、国造りに尽力してきました。協力隊がベリーズで活動を開始してからの25年間で、延べ210名もの日本人ボランティアが、環境、スポーツ、教育そして障害を持つ子どもたちの包摂といった分野で、多大な貢献をしてくださりました。ベリーズ政府および国民を代表して、日本政府と国民の皆様と心より感謝申し上げます。今後も、両国を結び付ける友好関係、協力関係、そして相互尊重の絆をより一層深めていきたいと思っております。



John Antonio Briceño



深川氏と筆者（写真左）

駐日トンガ大使 テヴィタ・スカ・マンギシ

JICA海外協力隊は、政府や市民などあらゆるレベルにおいて、トンガと日本の関係を強化し、確固たるものにするための手段となっています。深川千幹先生は1987年に私の母校トンガ高校に理科教師として派遣されましたが、約40年後、私たちは再会し、彼女が理事を務める特定非営利活動法人地球市民の会を通じて、防災教育や持続可能な農業といった分野で共に活動しています。この関係は、協力隊の活動が直接もたらしたものであり、一人の隊員教師とその生徒の間に育まれた絆が現在も続いています。

サポーター企業からの声

TOPPANホールディングス株式会社 代表取締役社長 CEO 磨秀晴



マレーシアにて、環境教育隊員として環境啓発ワークショップに取り組む社員の様子（写真：TOPPANホールディングス株式会社）

JICA海外協力隊発足60周年、心より祝い申し上げます。当社は、2013年度からJICA海外協力隊連携派遣制度を活用し、これまでに累計19名の社員を協力隊員として各国に派遣してきました。派遣された社員は、現地での活動を通じ、文化や商習慣の違いを越えて自発的なリーダーシップを培い、その学びをいかして帰国後も活躍しています。社会課題に向き合うマインドの醸成、および日本企業のグローバルな事業推進を担う「人材育成」に寄与する協力隊事業を長年支えてきた皆様に、心より敬意を表すとともに、世界と日本の未来を切り拓くJICA海外協力隊事業の今後のさらなる発展を期待しています。



磨 秀晴

受入れ機関からの声

パラグアイ日系・日本人会連合会会長 石田ミゲル



Miguel Ishida

JICA海外協力隊発足60周年、心より祝い申し上げます。パラグアイへの派遣は、1978年の3名の着任に始まり、南米で最初の派遣国としてこれまで47年の歩みを刻み、日・パラグアイ両国の友好の礎を築いてきました。日系社会との関わりは、1980年、南東部のピラポ移住地への体育および音楽隊員の着任から始まり、その後も多様な分野で多くの隊員が活動し、日本語教育や高齢者福祉、人材育成などに大きく貢献されています。長年にわたるご尽力に心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。2026年には日本人パラグアイ移住90周年を迎えますが、今後とも変わらぬご支援と隊員派遣の継続をお願い申し上げます。



Samantha Achuta

アチュータ・サマンタ インド・カリンガ産業工科大学 (KIIT)・カリンガ社会科学研究所 (KISS) 創設者/教授、元下院議員

JICA海外協力隊発足60周年を心より祝い申し上げます。隊員の派遣を通じて、日印間には深い文化的絆が生まれ、私たちの機関も強化されました。協力隊とのパートナーシップは、草の根レベルでの国際協力の真髄そのものです。日本語教育の隊員は、学生の日本産業対応能力の向上、ラグビーのスポーツ隊員は、大学スポーツの競争力・包摂性の強化に寄与しています。私たちは人材育成、相互尊重、そして草の根レベルでの活動という、協力隊の理念を高く評価しています。知識を惜しみなく共有する隊員の姿勢は、私たちが掲げる包摂的な教育と社会的エンパワーメントの理念に合致しています。今後もパートナーシップを一層強化し、繁栄と調和に満ちた世界の実現に向けて共に貢献することを楽しみにしています。

現役JICA海外協力隊員、元隊員からの声

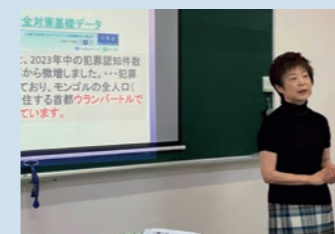
現役JICA海外協力隊員 コミュニティ開発職種・ルワンダ派遣「水の防衛隊」 石川 茉由



井戸修理が無事に完了し、村長と喜ぶ筆者（写真左から2人目）

「水の防衛隊」は、地域住民の安全な水へのアクセス確保に向けて、これまで井戸や湧水の維持管理などに取り組んできました。私は先輩隊員の活動を引き継ぎ、ルワンダの水衛生公社と連携して、井戸のパーツを首都から地方の村へ届ける仕組み作りを進めています。初めて出会った住民から、笑顔で「JICA！」と声をかけられる度に、長年にわたるJICA海外協力隊の成果が信頼という形で現場に息づいていることを実感します。60周年を迎えた今、協力隊のこれまでの歩みを真摯に振り返り、より地域の実情に沿った支援の在り方を考えていきたいです。

桜井千代子 JICA海外協力隊元隊員 日本語教育職種・モンゴル派遣



モンゴルの日本式高専（高等専門学校）にてクラスディベート大会に向けた授業を行う筆者（写真：JICA）

31年前、モンゴルで初めて教壇に立った時のことを思い出します。民主化後、日本語を自由に学べるようになった第1世代の学生たちに、新米教師の自分は何ができるのだろうかと思案しながらの活動でした。十分に貢献できなかった歯がゆさと、生活者としてその国の人々と深く付き合える面白さ。その経験が転機となり、外国で日本語を教える日々を今まで続けることになりました。2年前には再び隊員としてモンゴルへ。JICA海外協力隊は人生の選択肢を広げ、何歳になっても新しい自分を見つけることができる場であると実感しています。